

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495502878		
法人名	コスモスケア株式会社		
事業所名	グループホームコスモス向陽台 ユニット:ふじ		
所在地	仙台市泉区向陽台5丁目16-20		
自己評価作成日	平成29年1月31日	評価結果市町村受理日	

## ※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/04/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/04/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	平成29年2月10日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様と一緒に季節感のある行事や飾りつけを実施したり、できる家事を一緒に行ったりしています。個別のリハビリも頑張っており、住宅街の中にあり静かな環境の中、向かいにある公園にお散歩に行くことができます。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成27年4月、静かな住宅街に開設され、まもなく3年目を迎える。同法人のデイサービスが隣接しており、目の前が小学校で登下校時は元気な会話が聞こえたり、近くに公園があり利用者の散歩コースとなっている。さくらの理念は「明るく、楽しく」、ふじの理念は「安心、真心、思いやり」とユニット毎に理念を掲げ、ケアの質向上に向けて努力している。町内会に加入し防災訓練や清掃、花壇の花植え等に参加し、地域住民との交流に取り組んでいる。職員の月例会議や管理者との面談、6委員会(食事・清掃設備・行事・事故対策・オムツ発注・広報)の取り組みを通して、出された意見や提案を受け、事業所の運営や業務改善などに反映している。かかりつけ医や訪問看護ステーションが24時間対応しており、看護師を採用するなど医療と介護の連携がすすんでいる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名 GHコスモス向陽台）「ユニット名 ふじ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念に地域との交流についての文言も入っており、毎朝唱和して共有しています。	理念はさくらは「明るく、楽しく」、ふじは「安心、思いやり」とユニット毎に作成している。毎日ミーティング時に確認し、利用者主体のケアを行えるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の集まりには積極的に参加し、良い関係が築けています。	町内会に加入し、町内の防災訓練や総会、清掃、公園の花壇の花植え等に参加している。事業所の夏祭りや芋煮会にも家族や地域住民が参加したり、公園に事業所としてイルミネーションを取り付けるなど、地域との交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ケア会議に参加し地域の方々との交流に努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度、運営推進会議を実施してサービスの運営などについて報告、話し合いを実施しています。	町内会長・民生委員・地域包括職員・家族・職員の参加で偶数月に開催している。事業所の取り組み報告のみならず、町内会長から地域の茶話会への参加案内や、地域の高齢者マップ作りへの参加協力依頼などがあった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	仙台市の担当者とは日ごろから密に連絡をとってはいませんが、何か不明な点があれば都度お伺いしたいと思います。包括支援センターとは日ごろから良い交流をさせて頂いております。	事業所に於ける看護師の医療行為に関して、相談や指導を受けるケースがあった。不明な点など、都度相談するようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	左記について、スタッフ一同内容を理解して身体拘束を一切実施しないケアを実施しております。	施錠は20時半～7時までとしている。身体拘束や虐待に関する研修会を年2回実施している。ミーティングでも身体拘束をしないケアの実践について具体的に話し合っている。外出傾向の強い利用者にはゆっくり話を聞いたり、一緒に散歩をして気持ちを落ち着かせる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ一同何が虐待に当たるのかをしっかりと把握して虐待を無意識にも実施しないように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	既に日常生活自立支援事業について利用されている方もおられ、今後も必要に応じて支援していきたいと思っております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は懇切丁寧に内容を説明し、ご納得いただいた上で記名押印を頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置しました。	近隣に住んでいる家族が多く、頻繁に面会があるので、この時に要望や意見など出し易い環境作りに努めている。「ふじ便り」「さくら通信」を毎月ユニット毎に発行し、利用者の暮らしている様子を報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の月例会議においてスタッフとの意見を吸い上げています。	月例会議やカンファレンス、管理者との年2回の面談など実施し、意見や提案など聞く機会を設け反映している。6つの委員会(食事・清掃設備・行事・事故対策・オムツ発注・広報)を設置し、各委員会からの提案で改善に向けて取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	経営者、管理者が一体となって働きやすい職場になりますよう、面談や人事評価、目標設定など行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任研修や毎月のスタッフ研修、外部研修などの機会も設けて資質向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修や交流会に参加する機会を多く持ちたいですが、職員不足もあり介護スタッフが交流の機会を得る機会が少ないです。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントでは本人様の状況を把握して自立支援できますように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	年齢を重ねてからのご入居となると家族様にとっても大きな負担とお察ししますので、傾聴しながら信頼関係の構築に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期は特に環境の変化に敏感ですので、離設や転倒にも注意して心身の安定を図っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様のペースや体力、理解力に合わせて、施設側の都合で介護が終わるような事にならないように配慮しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何か問題が発生した場合は、家族様ともしっかりと連携して一緒に考え、対応するようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	極力なじみの物品を持って来て頂き、自室が本人様にとって居心地の良い場所になるように努めています。	家族や知人の面会が多く、居室やホールで話したり、近くの公園に散歩している。隣のデイサービスの利用者との交流もある。スーパーやコンビニへの買い物や家族と一緒に墓参りに出かける利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂のお席は仲の良い入居者様が並んで会話をしやすいように相性にも配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて連絡し状況確認をしています。施設を変わった場合はその先の施設の担当者へ情報を申し送りしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る事、やりたい事が可能な限り実現できますよう支援しています。	利用者の希望や趣味の把握に努めている。調理や茶碗拭き、編み物や歌など好きな事ができるよう支援している。かつて外国での船乗りをした人が英語の文字を読んで聞かせたり、CDで歌を流すと大きな声で自然に歌い出す利用者もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントでは本人様の状況を把握して自立支援できますように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	同上です。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回カンファレンスを実施して介護員、管理者、ケアマネがモニタリングしています。	日々の様子を記録している「気づきノート」をもとに毎月カンファレンスを行い、介護員、管理者、ケアマネで3ヶ月に1回ケアプランの見直しをして、家族の確認と同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録をまとめてカンファレンス時に見直しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	マッサージや介護の度合いの高い方の外出など多くのサービスのご協力を頂きながら対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	十分とは言えない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週かかりつけの主治医が往診に来てくれる体制を整えています。	ほとんどの利用者が往診医をかかりつけ医としている。利用者の「個人受診記録」と主治医の「受診報告書」を活用し、一人ひとりの健康状態を把握している。週1回の訪問看護師による健康管理のほか、訪問歯科を利用することもできる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師、常勤の看護師スタッフと報告や記録で連携しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医を通じて必要に応じて連携しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する指針を設けて入居時や必要時にご家族様と共有しています。	「看取りに関する指針」にそって入居時に利用者と家族に説明している。家族の要望を聞きながら事業所で出来る事と出来ない事を話し合い、医師の指示で対応している。看取り経験がある。今後、新人へのメンタルケアに取り組んでいく。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルに基づき研修を行い、対応できるようにしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	基準に基づきスプリンクラーを設置し、避難訓練を実施して災害時に備えています。	風水害マニュアルは今後作成予定である。避難訓練は夜間想定も含めて年2回行っている。消防署より2階の利用者の避難誘導は非常口から外に出すようにとの助言を得た。避難後の「見守り」に関して運営推進会議などで検討する。	夜間想定訓練に地域住民の参加が得られるような取組みを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇に関するマニュアルを整備して入居者様の尊厳が守られるように努めています。	呼び方は本人、家族の希望で主に名前で○○さんと呼んでいる。声がけや声のトーン、表情に気をつけている。接遇やプライバシー保護について学習をしたり、カンファレンスで話し合ったりしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	着る服やお出かけしたい場所など出来る限り本人様の選択を重要視して対応しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの体力や認知状況を鑑み、画一的な日課ではなく、一人ひとりのペースを守っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服だけではなく髪型や髭などの身だしなみも配慮して支援しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や調理、後片付けなど一人ひとりの理解力や意欲に沿って支援しています。	委託業者から、栄養士が作成した献立と食材が届き、職員が調理をしている。行事食は希望も取り入れ、誕生会は好評の「寿司」、夏はバーベキュー、お正月は鏡餅を「おかき」にして楽しんでいる。職員と一緒に調理や後片付けをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量と体調を把握して必要な栄養、水分が摂取できるよう食事形態にも配慮し支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施し清潔保持に努め、必要時は訪問歯科に治療をお願いしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限り自立した排泄ができるよう声掛けや物品にも配慮し、プライバシーにも配慮しています。	排泄チェック表に基づき、排泄パターンを把握し、きめ細かに個別対応をしている。ほとんどの人はリハビリで、夜間はポータブル利用の人もある。夜間の転倒防止の為、ベッドを低くし脇に布団を敷いている人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量や運動の不足、腸の働きなど多角的にとらえ、自然な排便ができますよう支援します。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴表に基づき定期的に入浴できるようにしていますが、曜日や時間をスタッフが決めるのではなく体調やご気分に合わせて柔軟に変更しています。	基本は週2回以上としているが、希望に応じて柔軟に対応している。午前、午後のバイタルチェックで体温が37度以上で最高血圧が150以上の人は入浴禁止で希望で足浴や清拭で対応する場合もある。女性は同性介助が多い。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	明るさや温度管理にも配慮し、且つ個室内での転倒防止にも出来る範囲で努めて安眠の支援をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認表に基づきスタッフ間でダブルチェックを実施して適切な服薬が出来るように支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔の趣味(読書や体操など)を家族様に伺い、出来る限り個別の楽しさを感じて頂けるように支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	隣接するデイサービスへの交流や外食や買い物を実施しています。	事業所としての外出は花見やアヤマ苑、紅葉狩りなど小グループに別れて、希望にそって外出支援している。隣接しているデイサービスや公園への散歩、スーパーへの買い物など個別に外出支援している。家族と一緒に自宅や墓参りに出かける利用者もいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は個別で現金管理を出来る方が少なく、スタッフ預かりとなっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様の声が聴けるように希望のある方には電話支援を実施しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある雰囲気作りはスタッフと入居者様が一緒に取り組んでいます。明るさにも配慮しています。	リビングは日当たりがよく明るい。利用者と職員が一緒に作った大きなお雛様が飾ってある。利用者の得意とする書道や絵手紙などが飾られており、季節感を採り入れ、家庭的な雰囲気が感じられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方、互いの相性を考えて共用空間の席やソファの配置に配慮しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り昔なじみの写真や服などを持参して頂き、安心できる環境づくりの声かけをして頂いています。	居室はベッド、エアコン、クローゼット、遮光カーテンが備え付けられている。洗面台とトイレは共用である。利用者は仏壇や位牌、テレビなど馴染みの物を持ち込んでいる。掃除は職員と一緒にいき、衣替えは家族が来て一緒に行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	広い施設ではありませんが、同線の確保や明るさへの配慮、分かりやすい表示に配慮しています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495500332		
法人名	コスモスケア株式会社		
事業所名	グループホームコスモス向陽台 ユニット:さくら		
所在地	仙台市泉区向陽台5丁目16-20		
自己評価作成日	平成29年1月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/04/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/04/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	平成29年2月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様と一緒に季節感のある行事や飾りつけを実施したり、できる家事を一緒に行ったりしています。個別のリハビリも頑張っており、住宅街の中にあり静かな環境の中、向かいにある公園にお散歩に行くことができます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成27年4月、静かな住宅街に開設され、まもなく3年目を迎える。同法人のデイサービスが隣接しており、目の前が小学校で登下校時は元気な会話が聞こえたり、近くに公園があり利用者の散歩コースとなっている。さくらの理念は「明るく、楽しく」、ふじの理念は「安心、真心、思いやり」とユニット毎に理念を掲げ、ケアの質向上に向けて努力している。町内会に加入し防災訓練や清掃、花壇の花植え等に参加し、地域住民との交流に取り組んでいる。職員の月例会議や管理者との面談、6委員会(食事・清掃設備・行事・事故対策・オムツ発注・広報)の取り組みを通して、出された意見や提案を受け、事業所の運営や業務改善などに反映している。かかりつけ医や訪問看護ステーションが24時間対応しており、看護師を採用するなど医療と介護の連携がすすんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名 GHコスモス向陽台 ）「 ユニット名 さくら 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念に地域との交流についての文言も入っており、毎朝唱和して共有しています。	理念はさくらは「明るく、楽しく」、ふじは「安心、思いやり」とユニット毎に作成している。毎日ミーティング時に確認し、利用者主体のケアを行えるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の集まりには積極的に参加し、良い関係が築けています。	町内会に加入し、町内の防災訓練や総会、清掃、公園の花壇の花植え等に参加している。事業所の夏祭りや芋煮会にも家族や地域住民が参加したり、公園に事業所としてイルミネーションを取り付けるなど、地域との交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ケア会議に参加し地域の方々との交流に努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度、運営推進会議を実施してサービスの運営などについて報告、話し合いを実施しています。	町内会長・民生委員・地域包括職員・家族・職員の参加で偶数月に開催している。事業所の取り組み報告のみならず、町内会長から地域の茶話会への参加案内や、地域の高齢者マップ作りへの参加協力依頼などがあった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	仙台市の担当者とは日ごろから密に連絡をとってはいませんが、何か不明な点があれば都度お伺いしたいと思います。包括支援センターとは日ごろから良い交流をさせて頂いております。	事業所に於ける看護師の医療行為に関して、相談や指導を受けるケースがあった。不明な点など、都度相談するようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	左記について、スタッフ一同内容を理解して身体拘束を一切実施しないケアを実施しております。	施錠は20時半～7時までとしている。身体拘束や虐待に関する研修会を年2回実施している。ミーティングでも身体拘束をしないケアの実践について具体的に話し合っている。外出傾向の強い利用者にはゆっくり話を聞いたり、一緒に散歩をして気持ちを落ち着かせる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ一同何が虐待に当たるのかをしっかりと把握して虐待を無意識にも実施しないように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今は左記の制度を活用されている方はいませんが、今後も必要に応じて支援していきたいと思えます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は懇切丁寧に内容を説明し、ご納得いただいた上で記名押印を頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置しました。	近隣に住んでいる家族が多く、頻りに面会があるので、この時に要望や意見など出し易い環境作りに努めている。「ふじ便り」「さくら通信」を毎月ユニット毎に発行し、利用者の暮らしている様子を報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の月例会議においてスタッフとの意見を吸い上げています。	月例会議やカンファレンス、管理者との年2回の面談など実施し、意見や提案など聞く機会を設け反映している。6つの委員会(食事・清掃設備・行事・事故対策・オムツ発注・広報)を設置し、各委員会からの提案で改善に向けて取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	経営者、管理者が一体となって働きやすい職場になりますよう、面談や人事評価、目標設定など行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任研修や毎月のスタッフ研修、外部研修などの機会も設けて資質向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修や交流会に参加する機会を多く持ちたいですが、職員不足もあり介護スタッフが交流の機会を得る機会が少ないです。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントでは本人様の状況を把握して自立支援できますように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	年齢を重ねてからのご入居となると家族様にとっても大きな負担とお察ししますので、傾聴しながら信頼関係の構築に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期は特に環境の変化に敏感ですので、離設や転倒にも注意して心身の安定を図っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様のペースや体力、理解力に合わせ、施設側の都合で介護が終わるような事にならないように配慮しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何か問題が発生した場合は、家族様ともしっかりと連携して一緒に考え、対応するようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	極力なじみの物品を持って来て頂き、自室が本人様にとって居心地の良い場所になるように努めています。	家族や知人の面会が多く、居室やホールで話したり、近くの公園に散歩している。隣のデイサービスの利用者との交流もある。スーパーやコンビニへの買い物や家族と一緒に墓参りに出かける利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂のお席は仲の良い入居者様が並んで会話をしやすいように相性にも配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて連絡し状況確認をしています。施設が変わった場合はその先の施設の担当者へ情報を申し送りしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る事、やりたい事が可能な限り実現できますよう支援しています。	利用者の希望や趣味の把握に努めている。調理や茶碗拭き、編み物や歌など好きな事ができるように支援している。かつて外国での船乗りをした人が英語の文字を読んで聞かせたり、CDで歌を流すと大きな声で自然に歌い出す利用者もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントでは本人様の状況を把握して自立支援できますように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	同上です。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1階カンファレンスを実施して介護員、管理者、ケアマネがモニタリングしています。	日々の様子を記録している「気づきノート」をもとに毎月カンファレンスを行い、介護員、管理者、ケアマネで3ヶ月に1回ケアプランの見直しをして、家族の確認と同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録をまとめてカンファレンス時に見直しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	マッサージや介護の度合いの高い方の外出など多くのサービスのご協力を頂きながら対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	十分とは言えない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週かかりつけの主治医が往診に来てくれる体制を整えています。	ほとんどの利用者が往診医をかかりつけ医としている。利用者の「個人受診記録」と主治医の「受診報告書」を活用し、一人ひとりの健康状態を把握している。週1回の訪問看護師による健康管理のほか、訪問歯科を利用することもできる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師、常勤の看護師スタッフと報告や記録で連携しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医を通じて必要に応じて連携しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する指針を設けて入居時や必要時にご家族様と共有しています。	「看取りに関する指針」にそって入居時に利用者と家族に説明している。家族の要望を聞きながら事業所で出来る事と出来ない事を話し合い、医師の指示で対応している。看取り経験がある。今後、新人へのメンタルケアに取り組んでいく。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルに基づき研修を行い、対応できるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	基準に基づきスプリンクラーを設置し、避難訓練を実施して災害時に備えています。	風水害マニュアルは今後作成予定である。避難訓練は夜間想定も含めて年2回行っている。消防署より2階の利用者の避難誘導は非常口から外に出すようにとの助言を得た。避難後の「見守り」に関して運営推進会議などで検討する。	夜間想定訓練に地域住民の参加が得られるような取組みを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇に関するマニュアルを整備して入居者様の尊厳が守られるように努めています。	呼び方は本人、家族の希望で主に名前で○ ○さんと呼んでいる。声がけや声のトーン、表情に気をつけている。接遇やプライバシー保護について学習をしたり、カンファレンスで話し合ったりしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	着る服やお出かけしたい場所など出来る限り本人様の選択を重要視して対応しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの体力や認知状況を鑑み、画一的な日課ではなく、一人ひとりのペースを守っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服だけではなく髪型や髭などの身だしなみも配慮して支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や調理、後片付けなど一人ひとりの理解力や意欲に沿って支援しています。	委託業者から、栄養士が作成した献立と食材が届き、職員が調理をしている。行事食は希望も取り入れ、誕生会は好評の「寿司」、夏はバーベキュー、お正月は鏡餅を「おかき」にして楽しんでいる。職員と一緒に調理や後片付けをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量と体調を把握して必要な栄養、水分が摂取できるよう食事形態にも配慮し支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施し清潔保持に努め、必要時は訪問歯科に治療をお願いしています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限り自立した排泄ができるよう声掛けや物品にも配慮し、プライバシーにも配慮しています。	排泄チェック表に基づき、排泄パターンを把握し、きめ細かに個別対応をしている。ほとんどの人はリハパンで、夜間はポータブル利用の人もいる。夜間の転倒防止の為、ベッドを低くし脇に布団を敷いている人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量や運動の不足、腸の働きなど多角的にとらえ、自然な排便ができますよう支援します。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴表に基づき定期的に入浴できるようにしていますが、曜日や時間をスタッフが決めるのではなく体調やご気分に合わせて柔軟に変更しています。	基本は週2回以上としているが、希望に応じて柔軟に対応している。午前、午後のバイタルチェックで体温が37度以上で最高血圧が150以上の人は入浴禁止で希望で足浴や清拭で対応する場合もある。女性は同性介助が多い。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	明るさや温度管理にも配慮し、且つ個室内での転倒防止にも出来る範囲で努めて安眠の支援をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認表に基づきスタッフ間でダブルチェックを実施して適切な服薬が出来るように支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔の趣味(コーラスや編み物など)を家族様に伺い、出来る限り個別の楽しさを感じて頂けるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	隣接するデイサービスへの交流や外食や買い物を実施しています。	事業所としての外出は花見やアヤマ苑、紅葉狩りなど小グループに別れて、希望にそって外出支援している。隣接しているデイサービスや公園への散歩、スーパーへの買い物など個別に外出支援している。家族と一緒に自宅や墓参りに出かける利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は個別で現金管理を出来る方が少なく、スタッフ預かりとなっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会が多く頂けていますので、特段の支援はしていませんでした。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある雰囲気作りはスタッフと入居者様が一緒に取り組んでいます。明るさにも配慮しています。	リビングは日当たりがよく明るい。利用者と職員が一緒に作った大きなお雛様が飾ってある。利用者の得意とする書道や絵手紙などが飾られており、季節感を採り入れ、家庭的な雰囲気が感じられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方、互いの相性を考えて共用空間の席やソファの配置に配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り昔なじみの写真や服などを持参して頂き、安心できる環境づくりの声かけをして頂いています。	居室はベッド、エアコン、クローゼット、遮光カーテンが備え付けられている。洗面台とトイレは共用である。利用者は仏壇や位牌、テレビなど馴染みの物を持ち込んでいる。掃除は職員と一緒にいき、衣替えは家族が来て一緒に行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	広い施設ではありませんが、同線の確保や明るさへの配慮、分かりやすい表示に配慮しています。		